

《担当者名》教授/柳川 芳毅

教授/泉 剛 教授/飯塚 健治 教授/木村真一 准教授/大橋 敦子 准教授/町田 拓自 講師/鹿内 浩樹 講師/水野 夏実

【概要】

実験薬理学、臨床薬理学に関する講義を通して、創薬や薬効・毒性評価に関する基礎的知識を修得する。

- ・実験動物を用いた実験薬理学の基礎を学び、生体に作用する薬物の影響を合理的に分析する方法を理解する。
- ・新薬開発における非臨床試験(一般毒性試験、特殊毒性試験)と第I相-第IV相臨床試験の意義を理解し、その実践法の具体的について学ぶ。
- ・病態時における薬物効果の解析法として病態モデル動物を用いた in vivo実験薬理学の概要を学び、創薬におけるその重要性を理解する。

【学修目標】

- ・培養細胞に作用する薬物の薬理作用と、実験動物を用いたその評価方法を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 ) 6	新しい概念に基づく創薬研究の立案	炎症性疾患、自己免疫疾患、アレルギー性疾患の病態メカニズムについて、最新の文献をもとに理解し、新しい概念に基づく創薬研究を立案することができる。また、その際に必要となるin vitro 一次スクリーニング系の具体的手法を考案することができる。	柳川 芳毅 木村真一 水野 夏実
7 ) 12	精神疾患の動物モデルを用いた研究	精神疾患の動物モデルについて、表面妥当性、構成妥当性、予測的妥当性の概念について説明できる。また、行動モデルと薬効相関モデルの違いについて説明できる。さらに、動物モデルを用いたトランスレーションリサーチの方法と現状について説明できる。	泉 剛 大橋 敦子 鹿内 浩樹
13 ) 15	培養細胞や実験動物を用いた生理活性物質の薬理作用やその機序の検討	培養細胞や実験動物を用いた実験や、関連する生理活性物質と薬物の作用について、作用機序の解明や新規治療法応用への可能性について考察し、実験計画を説明することができる。	飯塚 健治 町田 拓自

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

出席状況・受講態度(30%)とレポート内容(70%)により成績を評価する。

【実務経験】

柳川 芳毅(製薬企業において創薬研究に従事)、泉 剛(医師)、飯塚 健治(医師)、木村 真一(薬剤師)  
町田 拓自(薬剤師)、大橋 敦子(獣医師)、水野 夏実(薬剤師)、鹿内 浩樹(薬剤師)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での医師、獣医師、薬剤師としての実務経験を活かし、実践的な教育を行う。  
創薬に携わった実務経験を活かし、実践的な教育を行う。